

【議事録】第4回 岡崎活性化本部乙川リバーフロント推進部会

日 時：平成26年12月24日（水）14時00分～16時00分
会 場：市役所 福社会館6階 大ホール

概 要

第4回乙川リバーフロント推進部会では、「実証実験」、「サイン計画」、「駐車場」、「観光ホスピタリティー整備」、「市政施行100周年へ向けた今後の予定」について説明及び議論が行われた。各事業について、対象者、考え方、目的等を明確にすべきとの意見が多く提案された。

議事内容

1 開会

岡崎活性化本部より開会宣言。

2 あいさつ

部会長より開会のあいさつを行った。

3 議 事

(1) 実証実験について

事務局より、サイクリングコース、ランニングコース、橋のライトアップ、観光船、貸しボート、アクティビティ、ドッグランについて資料を用いて説明を行った。

〔意見交換〕

部会員

- ・ 河川敷については、普段でも首輪を外して犬を遊ばせている市民がいる。そういう現実を踏まえて、河川敷の利用をどうするか検討する必要がある。

事務局長

- ・ 岡崎市の条例としては、犬のリードを外してはいけない。リードを離して遊ぶことができるのがドッグランの特徴。
- ・ 岡崎市としてどのような選択をするか状況をみながら検討する必要がある。
- ・ ドッグランがあることで、ペットに関するマナーの向上、教育、告知ができるとわかった。乙川リバーフロント地区に限らず場所の選定などを検討していきたい。
- ・ 子犬が亡くなるという事故もあったが、飼い主さんからは、「この事故によりドッグランを止めるという判断はしないでほしい」「検討を進めてほしい」との要望があった。

副部会長

- ・ 観光産業軸、市民生活向上軸に分けて考える必要がある。
- ・ サイクリング、ランニングについては市民生活向上。観光船、貸しボートは観光産業。ライトアップは両方にかかる。分類分けをして目的を明確にした方がよい。

- ・ 誰が支えていくのかということと考えた場合、市民生活向上軸では、協会や市民の愛好家になる。自主活動化させていくためには、支える民間がいて会費などにより資金を集める必要がある。
- ・ イニシャルコストは国の補助金を使うが、ランニングコストは自主活動で工面できるようにすることが望ましい。
- ・ 実施主体となる市民団体や協会などが各々に必要である。
- ・ 実証実験では自主採算は難しいとの話があったが、観光産業軸で事業化を考える場合には、ある程度の自主採算は目指すべきである。そのために損益分岐点などを定めて、時期、観光客数、収支などを見据えて考える必要がある。
- ・ ライトアップは「どこからどう見せるか」という視点を加えて照明計画を考えた方がよいと思う。
- ・ 観光客にどこからどういう視点で見せ、そこからどういう行動を誘発するのかを含めて計画することで産業化に繋げる。また、市民のアイデンティティを育むことを目指すことが必要。どのように採算化に向かうのか検討する必要がある、重要な課題である。

事務局長

- ・ そのとおりだと思う。ただし、その課題を解決するには乙川リバーフロント計画だけではできない。シティプロモーション、シビックプライド、観光産業化が総合的に動く必要がある。
- ・ 対象はまず市民がメインとなり、その後に、観光客となると思う。市民が誇れるまちは観光客が来たがるまちである。
- ・ 観光協会、民間の観光事業者が再構築されてプロモーションと営業活動を行う必要がある。
- ・ 誰が支えるかについては、リバーフロント協議会及びそれに関連する組織を含めて関連事業所などの意向を調査して検討する必要がある。
- ・ 観光船に関しては、観光客にパッケージで営業をかける。また、頭首工の堰上げなど、関係機関との協議が必要となる。
- ・ ライトアップの視点に関しては、別で提案書を作成している。今後皆様のご意見をいただきたい。殿橋を見る場所、親柱をどう見せるかなど視点設定をしている。
- ・ ライトアップは岡崎市の顔となる。それらのビューポイントも含めて考える必要がある。

部会長

- ・ 市民サービスに関するプログラムに関しては、検証課題などを見ると規制、ルールが逆に必要になってきている。リバーフロントの規制緩和により、市民が自由に自分達の発意で使えるという展開とは逆行しているように感じる。そこの観点をクリアする手法や方策を考える必要がある。

岡崎市

- ・ 規制緩和は河川敷地の利用について緩和されたということ。好き勝手に使ってよいということではないと思う。
- ・ 利用者がそれぞれ好き勝手に使うと收拾がつかなくなる。どういう形で使うのか具体的なニーズを拾い上げ、その中で最も喜んでいただける使い方を議論する必要がある。
- ・ 利用にあたって、ある程度のルールは必要であると思う。

部会員

- ・ アクティビティではカヤックやカヌーなど様々なものがある。あってもよいが、景観としてそれがまち並みとどのように総合的に合うのか考えられていない。
- ・ ベネチアは、まちと船と船着場が総合的にデザインされている。京都も同様である。まち並みと川辺を見ることも楽しいと思う。そこをリンクする必要がある。
- ・ ドッグランは、囲いを設けると犬を飼っている人しか利用ができない。また、柵は景観的によくはない。景観的にどのようにドッグランをつくったらよいか議論する必要がある。
- ・ 別の場所でドッグランを利用したが、他の犬の糞などがあり病気の心配がある。管理が行き届かないことは問題である。また、臭いなどの問題も生じる。
- ・ ドッグランはあってもよいと思うが、様々な問題点を明確化し、どう解決するのか話し合いができるとうい。

事務局長

- ・ その通りであり、獣医師会からは、犬の病気が他の犬にうつる可能性があるというアドバイスを受けた。課題の解決には、リバーフロントのメンバーだけでは難しく、Animo、獣医師会、ペット事業者の皆さまの協力が不可欠。ドッグランはそう簡単にはできない。

岡崎市

- ・ 観光船と船着場は景観に配慮した形を検討している。
- ・ ボートについてはどうか。毎日実施する想定か。

事務局長

- ・ 全てこれからであり、乙川リバークラブなどができてからとなる。他事例では、カヌー教室などがあり、船の色調を揃えたりしている。大阪の川の駅で実施している事例では利用の時間指定をしている。一般の船が通る前の6:00~10:00までの利用など。
- ・ 全体的な景観としては、観光船は黒塗りの船で葵の紋が入るろ漕ぎ舟で、和のテイストである。アクティビティに関しては、デザインを含めて色調等を工夫する必要がある。

岡崎市

- ・ 観光船が和のテイストであるので、アクティビティとの同時利用は考慮が必要だと思う。

事務局長

- ・ 今後、どの程度の利用が予想されるか把握した上で検討を行う。
- ・ 観光船で吹矢橋から岡崎城へ向かう場合、マンション等が立ち並び、西三河事務所、名鉄鉄橋などがある。景観の統一は無理ではないか。それを含めて何を見せれば感動して乗船いただけるかを考える必要がある。

部会員

- ・ その議論は必要である。ベネチアであれば空間を楽しめるが、岡崎はそうではない。全てを和とするのか、新しいものを取り入れてミックスした状態で総合的な風景とするのか、具体的に話し合う必要がある。
- ・ 岡崎のポテンシャルを、明らかにする必要がある。

事務局長

- ・ 色のトーンとしては、リバーフロント周辺は全体的にシックである。

岡崎市

- ・ イメージされている日本全国のきれいなまち、川越などのイメージがあると思うが、実際には何十年とかかっている。一年や二年では変わらない。その中で、現在考えている船着

場は和風のテイストで考えている。

- ・ 少しずつやっていくことで進めていくというのが個人的な希望。

部会員

- ・ 視覚的な歴史を積上げていけば景観的な矛盾は当然でてくる。そういう積み重ねを含めて受け入れる。
- ・ なぜ乙川に船が必要かということだが、岡崎城は日本で最初にできた平城である。岡崎の考え方では、家康の祖父の代から楽市楽座があると商工会議所も推し進めている。平城に自然の河川を掘割に利用し、東海道がすぐ近くにある。そういう岡崎の歴史を売り物にすれば少々視覚的なものが足りなくても観光客に満足していただけると思う。

シティプロモーション推進会議 座長

- ・ 新しい人道橋も含めて全て祝祭空間として祭りの流れの中でやっていただければと思う。そのため、一度、祝祭空間を整理していただきたい。その点を考えないとライトアップでも祭りの邪魔となる場合がある。
- ・ シティプロモーションでは、徳川家康というバックボーンを財産として祝祭空間にどう埋め込んでいくか。また、竹千代が生まれた場所として、子育てが非常にし易い場所、生活空間として岡崎が愛に満ちた場所であることに着目している。一つ一つコンセプトを決めて行かないと何も決まらない。その辺の視点を入れてほしい。
- ・ 岡崎は祝祭空間が豊かな場所である。お祭りが春夏秋冬ある。生活空間、教育関係も非常によいと思う。この2本の軸で岡崎のシティプロモーションも考えており、リバーフロントでも一緒に出来ればと思う。

市民

- ・ 部会が実証実験の報告討論会となってしまっはいけない。心を通じた議論をしていただく必要がある。
- ・ ターゲットは観光客なのか市民なのか明確にしないといけない。
- ・ リバーフロント研究所の絵がポンと出てきている。岡崎市民のための設計をされているのか。岡崎市の心を知り、岡崎を知り、乙川を知り、歴史を知ることが重要である。鈴木さんにもっと引っ張っていただければと思う。

(2) サイン計画について

- ・ 岡崎市より、公共サインデザインガイドラン(素案)について資料を用いて説明を行った。

部会長

- ・ サイン計画で一番大事なことは、「おもてなしの精神を大切にして 気持ちを込めた 岡崎独自の印象に残る」ということに全てが集約されていると思う。この観点を踏まえたサイン計画になるとよい。

(3) 駐車場について

- ・ 事務局長より、乙川リバーフロント地区における駐車場の要否について資料を用いて説明を行った。

〔意見交換〕

部会員

- ・ 大きなイベントは春の桜まつりと夏の花火大会であり、その際は絶対的に駐車場が足りない状態である。そのため駐車場の案内は行わず、「公共交通を利用して下さい。」とアナウンスしている。イベント時だけでも大きな駐車スペースがあるとよいと思う。

部会員

- ・ 当然、桜まつり・花火大会は人が多い。ただし、公共交通、バスを用いることが未来的志向だと思う。
- ・ 平時は駐車場が空いている。平時で適度に儲かる程度の駐車スペースがあればよいと思う。
- ・ ヨーロッパのように、郊外でマイカーを止めて、そこから公共交通をつかう方法もある。中央総合公園に車を停めさせて、バスを運行させるなどの検討が今後は必要になると思う。

部会員

- ・ リバーフロント計画において、観光産業は軸となる。観光バスが無料で止められるスペースがあればそれをキーワードとして観光会社にPRしていける。
- ・ 「平城」「楽市楽座」などをキーワードに観光船を組み合わせたバスツアーを組んでいただけたらと思う。

副部長

- ・ 駐車場についても来訪者がどういう行動をとるのか考える必要がある。目的地近くに車を停めて駐車場を転々とするパターン。歩く回遊性を考慮して、離れた駐車場の料金を安価にする。または、レンタルサイクルを設けるパターンなど。これらを踏まえてどの程度のキャパを必要とするか整理して考える必要がある。そこを想定しないと駐車場の整備について判断ができない。
- ・ マーケティングと行動計画についてある程度計画を練っていく必要がある。

部会員

- ・ 現状として、平日は駐車場に空きがあり使われていない。花火大会では駐車場がなくても公共交通機関を使うため、駐車場はこれ以上つくらない方がよいと思う。景観的にもよくない。

事務局長

- ・ いろいろな説明会で周辺部の方からは「この計画は中心市街地の事業だ」と言われる。中心市街地以外の方からみて率直な意見はどうか。バスで来て河川敷を利用するのか。

部会員

- ・ 率直に言うと今の年代では中心部には車で行きたくなる。子供がイベントに参加するなどの目的がない場合では、駐車場がなければ行かないと思う。
- ・ 豊田の駅前には多くの駐車場があり、ホテル、ホール、図書館、百貨店などがあり、駐車場が回遊の拠点となっている。また、それに伴う駐車場の割引もある。岡崎市はそのような割引もなく、駅の駐車場は駅利用者が大半である。そこに停めてまでイベントに参加しようとはならない。
- ・ 個人的には駐車場はあってほしい。

岡崎市

- ・ どうなるか分からないが、エリアの中にこれ以上、駐車場を設けるのはいかがなものかと考える。
- ・ 現在考えている案では、エリアの東側には市役所の駐車場があり、西側には河川敷の広い空間がある。これらを利用できるように活動し、元気な方にはそこに停車して徒歩またはバスを利用していただく。体の調子が悪い方や、急いでいる方は中心部の駐車場を利用していただければと考えている。

(4) 観光ホスピタリティー整備

- ・ 事務局長より、観光ホスピタリティーについて説明を行った。

〔意見交換〕

部会員

- ・ 人的要素について、ここ 10 年ほどの傾向として、商店街の経営者の心がすさんできている。「人よし、客よし、地域よし」という「3よし」が江戸時代の商業の基本であるが、「地域よし」が欠落し、お金を稼ぐことが偉いという若い経営者が増えてきている。
- ・ 事業の中核となる若い経営者の心を育てることも事業に取り込んでいけたらと思う。

副部長

- ・ 自慢したくなることが大事である。自分の店や商品だけでなく、リバーフロント地区や路地などが自慢できれば、自然に街をアピールするようになる。
- ・ 新しくこのまちで何かをやりたい人が歴史を知っている方々と繋がっていける仕組みも必要である。

部会員

- ・ 新しい経営者は、組合に入りたがらない。
- ・ モラルから築き上げる必要があると商店街の人間として考えている。

部会員

- ・ 和ということだけにあまりこだわると成功しないと思う。人間は雑多なところを好む。
- ・ サンタがパドルボートをこいでいる例もあったが、武将隊の格好でパドルボートをやっても面白いと思う。

部会員

- ・ 風格、歴史、和を考え過ぎると、それ以外はしていけないと感じてしまう。住みづらく、息苦しいことになる。
- ・ 若い人は楽しい、かっこいい、かわいいなどの柔らかい感覚の部分が好きであり、どう取り入れていくか考える必要がある。
- ・ 歴史だけでなく雑多なものがあるなかで、橋や船なども和だけでなく、現代を取り入れつつ和を意識するなどの方向もあると思う。
- ・ 理想論ではあるが皆が話をされていて楽しくなるデザインがよいと思う。

(5) 市政施行 100 周年（平成 28 年 7 月 1 日）へ向けた今後の予定について

- ・ 岡崎市より、スライド資料を用いて市政施行 100 周年（平成 28 年 7 月 1 日）へ向けた今後の整備予定等について説明を行った。

(6) その他

事務連絡

下記のとおり今後の活動について連絡を行った。

『第5回 岡崎活性化本部 乙川リバーフロント推進部会』について

日時：平成26年2月12日（木）14：00～16：00

会場：岡崎市役所西庁舎 7階701号室

〔意見交換〕

市議員

- ・ 12/22に12月定例会が閉会となったが、最終日に乙川リバーフロント計画の見直しを求める請願について審議があった。37人の定員のうち、34人が見直しに対して反対との結果が出て棄却された。
- ・ 多くの議員が計画の推進に賛成しているが、諸手を挙げての賛成というよりは、乙川リバーフロント計画に期待をしているとの理解をしていただけるとよいと思う。
- ・ ハード整備に目がいきがちであるが、本日の議論のようなソフト面の充実が成功の鍵であると思う。例えばスマホのアプリなどが充実しないとお客さんは増えてこない。リバーフロントアプリの充実を進めていただければと思う。
- ・ 実証実験の報告をいただいたが、それだけで終わらず、今後も色々な事業にトライしていただきたい。皆さんが一番利用しやすい乙川リバーフロントをつくっていただければと思う。

市民

- ・ 徳川四天王石像の設置について発想の転換をお願いしたい。四天王の設置は岡崎市が半永久的に設置し、岡崎市民が鑑賞する。また、日本全国、世界の方も鑑賞する。岡崎には400年の伝統のある石工がいるが、世界的に注目を集めるものであれば無償でつくっていただければよいと思う。
- ・ 世界の歴史的な石像をみると無償で作成している。岡崎も自信と名誉があれば無償でつくっていただければよいと思う。
- ・ 製作は岡崎だけでなく、岡崎1/3、日本全国1/3、世界1/3から募集すれば良い。
- ・ 余ったお金は別の形で有効的に使えばよい。
- ・ 昨年ディズニーランドは入場券のみで2300万人来場している。皆リピーターである。対象はお年寄りである。
- ・ どのパレードにもお姫様、王子様が入っている。要するに昔の考え方である。四天王石像も昔の考え方である。昔の考え方が大事。
- ・ 昔の古臭く錆びたようなアイデアが人間の心に受けて人が集まる。若い方のアイデアもそのようなバックデータがあって生きてくる。

4 閉会

岡崎活性化本部より閉会宣言。

以上